

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



無事に残った壁を利用して建てられた仮小屋で家族が暮らす。陽高県西団堡村で

Contents

- 自然災害は貧乏を狙い撃ちする P 1
- 2000年をむかえた黄土高原 P 4
- ナショナルトラスト・チコロナイ P 7

2000.1

71

自然災害は貧乏を狙い撃ちする

～10年間で8つの災害におそわれた村から



トウモロコシとジャガイモのしぼりかす

◆3年連続の自然災害

大同県と陽高県の県境で11月1日に発生した地震の被災地を昨年末、見舞ってきました。

99年、大同の農村が大早魃だったことは、昨年の9月号で報告しました。最終的な収穫は平年の82%減でした。

自然災害は恐ろしいのですが、もっと恐ろしいのは自然災害がつづくことです。黄土高原の農民は、いい年に巡りあっても食べ尽くさず、食糧の備蓄を心がけます。

この活動を始めてから、92年、93年が早魃、94年がよくて、95年が最悪、96年が豊作で、97年は悪く、98年はまずまずで、99年が極悪、私はそうとらえていました。ところが今回の被災地は、98年も早魃のうえにイナゴの害が発生し、凶作でした。3年つづきの自然災害です。

食糧のかかなりの割合を占めるジャガイモがありません。あってもビー玉ほどの大きさで、てのひらに10個も並びます。キビ、アワは全滅。多少でも収穫があったのはトウモロコシですが、最良の畑に植えるからです。実の長さはせいぜい15cm、歯抜けだらけです。いちばんよかった家で200kgをたらす、1人ぶんの食いぶちです。

軒先に直径10cmほどの黒灰色の固まりが干してあります。デンプンをとったジャガイモのカスで、春節のあとはトウモロコシに混ぜて食べるそうです。顧問の遠田宏さんは敗戦直後に口にしたそうで、「ノドをとるものじゃありません。あれを食べますか」と、電話のむこうで絶句しました。

◆早魃を地震が追い打ち

地震はM5.6と比較的小さく、外観的な被害はさほどみられず、死者もありません。不幸中の幸いでした。ビデオカメラをむけると、被害を語りながらも笑顔がでたりで、緊張感はありません。

話をきいているうちに、みかけより被害の大きいことがわかりました。

今回と同じ場所で89年にM6.2、91年にM5.8の地震があり、土づくりの窯洞は潰滅しました。世界銀行の借金をまた借りして、一帯の農家はレンガ建てになりました。1戸あたり5,000～7,000円の借金ができ、返済は終わっていません。

その住宅が、壁が傾いたり、亀裂がはいったりして、住めなくなりました。立って入るのがやっとの小屋を庭先に建て、余震のなかで暮らしています。私が訪れた日は、最低気温が-24℃、最高気温が-12℃、風が強くて、息も凍る寒さでした。

繰り返しますが、新しいレンガ建てだったために、死者はなかったのです。しかし、経済的な損失は、以前の何倍にもふくらみました。農民は「借金を返せなかったらどうなるだろう、13年より先は利子がつくけど、率はどれだけだろう？」などと悩みを私に語りかけます。冬の食糧、春の種や種イモ... 差し迫った問題があるのに、頭を占めているのは借金のように。

◆災害は貧しい村を狙い撃ち

震源の陽高県西団堡村を訪れたのは、マカオ返還を待つ土曜日でしたが、地震による遅れを取り戻すため、テントの教室で中学校の授業中でした。緊急に寄せられた義援金28万円を日本から届けたことが報告されると、拍手がわきました。食糧、燃料など切迫している問題に使うそうです。

ひとこと話をしました。まっ正面からの子どもの目をみているうちに、阪神大震災のあと、芦屋学生市民救援隊の高校生、大学生と

取り組んだ救援活動がダブってきて、涙声になり、「みなさんもいまはつらいでしょうが、この経験は将来きっとやくだちます。がんばってください」といって、あわてて締めくくりました。

中国政府は災害救援に手慣れており、最低限のことにはきわめて迅速であることを、私は何回も目にしてきました。今回もそのとおりです。

それにしても、どうして自然災害は貧しい村を狙い撃ちにするのでしょうか。

今回は死者もなく、外観の被害が軽かったため、報道もかぎられたようで、外部からの救援はありません。

◆種子の配布に協力

帰りの北京で日本大使館の杉本公使に被災地のようすを話し、ビデオをみてもらいました。事情を理解していただけ、被災地の学校再建に迅速に協力していただけるようです。その手続きを大同市青年連合会がすすめています。

私たちも学校再建に協力するとともに、たとえばジャガイモの優良品種の種イモなどを春に配ることを決めました。自家採取の種を使いつづけたため、品種が劣化し、ウイルス病のものも多いので、この機会に種イモを変えれば、収穫の向上が可能です。そういう例をみたことがあります。

悪いこともいいことに変えることができる～いつもそう考えていないと、この地方では活動できません。種イモは現地近くで調達しますので、費用にご協力いただくと幸いです。

郵便振替 00940-2-128465

銀行口座 三和銀行阪急梅田北支店
普通預金5284852

名義はいずれも「緑の地球ネットワーク」です。「被災地救援」と指定してください。(高見)



右奥の校舎は危険で使えない。授業も生活もテント



年末カンパをありがとうございました

70号でみなさんに年末カンパをお願いしましたが、たくさんの方からのご協力ありがとうございました。また、昨年11月の大同での地震も情報の届いた方がたからはさっそくに義援金も届けていただきました。

GENの活動も9年目にはいります。会員はじめ多くの方々がこの活動をずっと継続して心にかけていただいていることに感謝します。また、地球

環境問題、特に海と大気を共有する中国の環境改善を応援したい、参加したいという人もふえています。みなさんにいろいろな形で参加していただくのが、GENの大事な仕事だと思います。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

ご寄付

毎年緑化基金をご協力いただいでい

る国際ソロプチミスト奈良5支部から11月に107,000円のカンパをいただきました。ありがとうございました。

今回からは、林業技術者養成のための奨学金として、今後も継続していただけることになりました。

協力の拡大にあなたの力を!

できる範囲で応援してください

GENが大同市で緑化協力をはじめた当初は苗木代をおくるだけだった協力は、小学校付属果樹園の建設、育苗、地球環境林センターや霊丘自然植物園の建設と、ずいぶんひろがり、多岐にわたってきました。そのせいか、最近「キンコンキン利用の育苗とか、むずかしそうでわかりにくい」というご意見をいただくことがあります。

活動内容を理解していただく助けともなり、協力者をふやすツールともなり、活動資金源ともなる各種販売物や、お気軽にご参加いただける協力活動をまとめてみました。みなさんのご協力をお待ちしています。

●ビデオ『森よ、よみがえれ!』

VHS・28分・5,000円(会員価格4,000円・送料270円別)

環境事業団地球環境基金制作協力、文部省選定、環境庁・林野庁・在日本中国大使館・大阪府教委・京都府教委推薦。小学校高学年以上の環境教育にも好適です。

※申込み：郵送・FAX・e-mailでGEN事務所まで。

●絵ハガキ“中国・黄土高原”

橋本紘二さんが撮影したたくさん写真のなかから選んだ自信作で4種類つくりました。いずれもカラー8枚組。

『秋・冬』『緑化』...各1セット600円

『春』『夏』...各1セット500円

(送料別途。5組以上のご注文で送料サービス、10組以上だと20%割引)

※ご注文はGEN事務所まで、電話・

FAX・e-mailでどうぞ。

●『黄砂の村をゆく～中国黄土高原の緑化に挑むNGO』上田信著・GEN発行・500円(送料別)

GEN世話人で立教大学教授の上田さんが雑誌に発表した文章に、書き下ろしをくわえて小冊子にしました。『森と緑の中国史』にも再録されています。※申込み：GEN事務所まで。

●『警告する自然—どうする人間—どうなる環境』立花吉茂著・淡交社・定価1,700円(税別)

GEN代表の立花先生が、地球温暖化、環境ホルモンの話から、黄土高原の緑化もふくめた世界の植物の話まで、豊富な話題を平易に語った本です。※お近くの書店でおもとめください。

GEN事務所にも用意しています。

●『森と緑の中国史—エコロジカル・ヒストリーの試み』上田信著・岩波

GEN 自然と親しお会 冬の箕面観察会

箕面一帯の山には、一斉植林された針葉樹林と雑木林が入りまじっています。落葉樹は葉を落として、観察しやすい季節です。

大住先生のご案内で、山のなりたち、人と山のかかわりなどを学びながら、山歩きを楽しみましょう。

●日時：2月6日(日)10時～15時ごろ

書店・定価2,800円(税別)

『黄砂の村をゆく』(GEN発行)や、本誌に連載されていた『緑の中国〈歴史篇〉』の内容に、歴史的考察や日本、中国、フィリピンでの体験をまじえ、「未来の森」への思いが語られます。※お近くの書店でおもとめください。

GEN事務所にも用意しています。

◆空き缶募金にご協力ください

空き缶を貯金箱にして、たまった小銭を緑化基金にしていだけませんか? 空き缶に貼るステッカーを用意しています。ご希望の方はGEN事務所までご連絡ください。

◆使用済みテレカを送ってください

使用済みのテレホンカード、オレンジカード、ハイウェイカードなどをお送りください。換金して緑化基金とさせていただきます。定期券やパンカード、コピーカード、折れ曲がったもの、キズ・汚れのひどいものは換金できないので遠慮ください。

●集合：午前10時に阪急箕面線「箕面」駅

●講師：大住克博さん(森林総合研究所関西支所研究員)

●参加費：大人700円、中学生以下200円(保険料ふくむ)

●もちもの：弁当、水筒、あればポケット植物図鑑など。歩きやすい靴でご参加ください。

●申込み：2月3日までにGEN事務所まで。

※小雨決行。

2000年をむかえた黄土高原

21世紀に緑を取り戻すために

遠田 宏 (GEN顧問・元東北大学附属植物園園長)

●重い歴史を背負っている農村

いよいよ西暦2000年に突入。2000年前といえば日本ではまだ弥生の時代、しかし中国では漢王朝400年のど真ん中で前漢と後漢を区切る時代です。前漢の成立(BC202年)にまつわる項羽と劉邦の戦いはおなじみですし、それに先立つ秦の始皇帝は全国統一をはたしましたが、その王朝はわずか15年で崩壊し、さらに先立つ戦国時代(BC450~22年)と春秋時代(BC722~450年)の物語は現代に至るまで語りつがれています。朝日新聞連載中の「沙中の回廊」は春秋五覇の1人、晋の文公を取り巻く争いを中心に進んでいます(12月末現在)、晋は現在の山西省を中心にした勢力で、それは現在、山西省の自動車のナンバープレートの頭に「晋」として残っています。晋はその後、趙・魏・韓に分裂し戦国時代に入りますが、趙は現在の山西省北半分から河北省のあたりを支配しており、大同周辺はその最北端の前線として、絶えざる北からの侵入とその防備に苦しんだ地域です。大同市の靈丘や広靈の地名は趙の王である武靈王(在位BC325~299年)にちなんだものであり、靈丘の郊外には武靈王の陵があります。修復されたこの陵に植林した記憶をお持ちのかたもいることでしょう。春秋時代の偉大な思想家孔子の教えは儒教となって、その血族の倫理は2500年後の現在でも(孔子批判にもかかわらず)中国人の生活規範になっているそうですが、それは私達が農家で食事や宿泊などでお世話になるとき、お手伝いに来る人々は、血族、姻族の人たちであることでも感じられます。これらの人々の関係を聞いていると頭が混乱しますが、血族の倫理が現在の農村社会でどの程度強いのか、もし、それが最も優先される社会であれば、21世紀中葉をめざす中国の発展のなかで、近代農村への発展はかなり困難が伴うようにも感じます。

中国の技術者達は「中国の農業技術

には2000年以上の歴史がある」とそのプライドは高く、初めころは意見の交換もスムーズにはいきませんでした。たしかにこの地方の農耕は前5000年ころ始まったと推定されていますし、中国最古の農書「汜勝之書」は紀元前1世紀のもので、山西省での農耕のマニュアルですが、例えば、春先に農地からの水の蒸散を押さえる耕しかたや、春先に雑草が伸びてから耕して肥料にする有利さ、休耕による地力回復、わずかな雪の利用法など古代農業の水準の高さがうかがわれます。しかしこれら農業技術が、歴史的にどのように理解され伝えられてきたのかは疑問です。歴史のプライドだけが一人歩きしているとすれば問題です。

春秋戦国時代には、この地方の50%は森林に覆われていたとされています。しかし、新中国成立の50年代の初めには2.36%でした。理由はいろいろ論議されていますが、歴史的に収奪的な伐採が続き、植林は無視されたようです。森林消失からくる農業条件の悪化、貧困、人口増加、耕地の拡大、過放牧、この悪循環からの脱出に苦悩する現在の農村は、日中戦争での大きな被害を含め、改革解放、そして発展ををめざす中国のなかにあって重すぎる歴史を背負っているといわざるをえません。

●黄土高原と黄土

時代は一挙に億~10億年単位の昔、この地方を含む現在の中国の大半は地中海地域から連なるチテス海といわれる海の底でした。現在の内蒙古を東西に走る陰山山脈と西安の南を同じく東西に走る秦嶺山脈が出現したのは古生代(5.7~2.4億年前)のころとされており、その後、プレートテクトニクス論にしたがえば、太平洋プレートが東から移動してきて現在の大陸の下にはいり持ち上げ陸地化し、現在は標高1000m前後の高原になった、ということですが、新生代初期(6000万年前)のころから東からの水平に働くプレートの圧縮力により南北に走る断層を伴



写真1 礫をふくむ帯水層に植物がはえている。隆起と沈降が交互に生じて太行山脈、恒山山脈、呂梁山脈、寧夏の賀蘭山脈と盆地をつくったとされています。渾源の町や懸空寺周辺で見られる恒山山脈の800mもの絶壁(断層崖)には何十層もの岩盤が積み重なって見事なものです(写真1)、いずれもチテス海時代のもので最下層は20億年くらい前に海の底に堆積したものが岩となったものです(したがって化石はありません)。懸空寺の青空市場で売っている三葉虫の化石はお寺の裏山の頂上付近で出土しますが、三葉虫は古生代の海産節足動物です。これはヒマラヤが層状の岩盤からなり、頂上付近に海産動物の化石がでると同じことです。

このような山西省の地形に空から黄土が降ってくるようになったのは更新世(160万年前)からで、それは断続的に現在まで続いています。その源は主として西に数千キロ離れたタクラマカン砂漠を含むゴビ砂漠です。発達した大陸性高気圧は強烈な西風となって砂漠の砂を巻き上げて東に進み、呂梁山脈や太行山脈に遮られて落下します。ですから黄土地帯は山西省全域と呂梁山脈西側から風の吹き抜ける渭水(河)沿いの西安方面が中心であり、黄土の厚さは100~200mにも達しています。100万年前で100m積もれば年平均はわずか0.1mmですが、遠方から微砂がとんでくるのは、空気が乾燥・低温のときです。160万年以来、地球は温暖・湿潤と寒冷・乾燥の時代を繰り返し、その期間もいろいろです。黄土の積もるスピードは時代により異なっていたはずですし、湿潤な時代には植物も程度の差はあれ豊富であったはずで

さて問題の黄土ですが、風で運ばれてくる以上、当然粒子は小さく、2~50ミクロンのものが圧倒的に多く、石灰岩の小片を多く含み、ナトリウムが多くpH8.4前後のアルカリ土壌です。

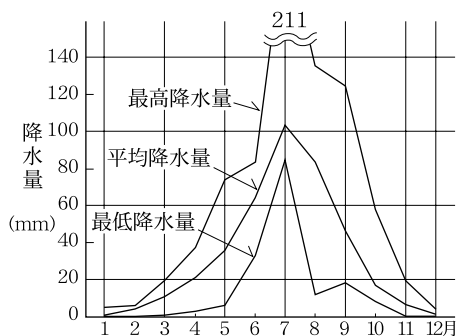


図1 月別降水量(大同地区)

平均降水量：78～97年の平均(除88、89年)
最高・最低降水量：90～97年

団粒構造は発達せず、黄土の粒状の固まりも水を含むと100%バラバラの単粒になってしまいます。ですから水を含むとグリーヌ状に溶け、乾燥するとカチカチに固まる厄介なものです。水や空気の通りが悪くこの黄土で作物をつくり、木を育てることは至難なことです。しかし実際の現地では空から降ってきた黄土そのものが地表に現れている場所は多くはありません。大半の土地では堆積黄土といわれる二次的な堆積物に覆われています。これは山岳地帯の岩盤が長年にわたり浸食され風化されて砂や礫となったものが、山に積もった黄土とともに、過去何度もあった湿潤時代の大雨に流されてきたものです。現地では黄土層の断面上部に砂利層が何層も30～100cm位の間隔で見ることができますが、過去何度も山の上から砂利や黄土が流されてきて堆積したものです。適当に砂を含んだ黄土は空気も水も通りが良くなり、植物も生育可能になります。現在の農耕地は全て堆積黄土地帯ですが、含まれる砂の質、大きさ、量などによって畠の土壌条件の良否が分かります。植林する場合もこの土壌条件をよく見極めないと失敗しますが、良い場所は山の上まで畠になっていますから、どうしても植林は条件の悪いところになり、人為的に砂や軽石、落ち葉などを混ぜて空気の通りをよくしてやるなどの工夫が必要となります。黄土それ自体はこの地方の宿命的なものです、21世紀の農村、そして中国の発展のためには、かつての緑の大地をとりもどす努力を続けることが不可欠な課題です。

●気象条件と植林

いくら土壌が良くても水条件が悪け

ればどうしようもありません。この地方の平地での降水量は年400mm前後ですが、年による差は大きく(300～570mm)当然月別降水量も年によって大きく異なり、しかも70%位が夏に集中するため(図1)、農業のリスクはかなり大きくなります。99年は早魃の年で、98年9月から99年8月まで記録的な少雨でした。作物は82%の減収だそうです。植林した木はどうなっているのか? 図2は大同県遇駕山の3地点で各50本のショウジマツ(86年植林)の幹の年間伸長量を調べたものです。やはり99年の伸長は2地点で落ちています。95年にも大幅に落ちていますが、この年の春もほとんど雨は降りませんでした(1～5月合計は12.3mm)難しいのは96年で、この年の春も21.1mmで降雨の効果は期待できないにもかかわらず生育は正常に戻っています。ハテ? しかし、前年の秋と当年春の降水量を合算すると説明がつかず。樹木の生育はその年の春の降水量だけでなく、前年秋の降水量が大きく影響しているようです。「山西土壌」には凍結前と凍結後の土壌含水量はほぼ同じ、とわずか1行ですが書いてあります。しかし、図2にある調査地3地点の内1地点は他の2地点とは異なり、95年と99年にはわずかの影響しか受けていません。これは恒山で99年春に植えたマツ苗も同じで、早魃にもかかわらず9月時点で約90%の活着率を示しました。伏流水など山や丘の複雑な水系が推定されませんが理由は不明です。

50年代から始まった中国の植林計画は大同市に膨大な面積のポプラの植林地を作りあげました。しかしその生育は悪く、樹形はひねこけて、現地では小老樹と呼ばれています。ポプラはある程度水さえ保証されれば、この地方では非常によく育つ木です。道路の側溝や水路沿いの並木のポプラなどは、年間に1m以上も伸長し、直径で2cm位も肥っていきます。しかし、平地に大量に植林されたポプラは初めの10～15年位はなんとか生育しますが、その後さらに大きくなって水の要求量が増すと次第に生育は悪くなり、ついには

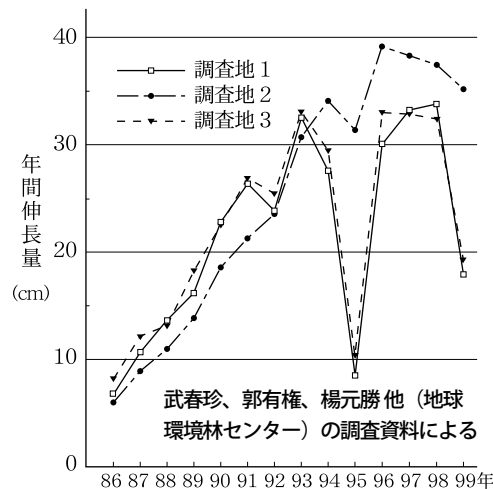
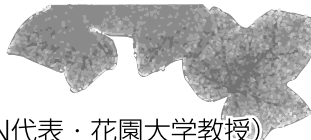


図2 ショウジマツ樹幹の年間伸長量の推移(大同県遇駕山)

主幹の先端から枯れていきます。主幹の上部が枯れると下枝の1本がそれに代わって伸びますが、やがてそれも枯れ、また代わりの枝が...の繰り返しをやってかろうじて生きています。この地方の平地で降雨にたよって大面積の森林をつくること自体に無理があるようですし、さらに小老樹林を今後どうするのかは大きな問題です。

山岳での水事情は平地とは異なります。標高2000mクラスの連山ですが雨量は500～700mmあり、霧や雲からの水の供給もあり、湿度も高く、気温は低く蒸発量は押さえられていますから、特に北斜面は十分に森林が成立する条件にあります。現に恒山の頂上付近にはマツ、モミ、トウヒ、カンバ類等々からなる自然林が残っていますし、霊丘の奥山にはクヌギ類を主にした森林があります。200年をむかえ、中国政府は内陸地域開発の着手を発表し、日中両政府は植林による自然環境の回復に本腰を入れてきました。この地方で森林回復をめざす植林は、やはり山麓を含む山岳地帯をターゲットにすべきだと思いますが、丸裸の山の上まで広がる畠や過放牧状態、植林の大敵、ネズミやウサギの跋扈をみると、容易なことではないと「歴史的原因」のツケの大きさを感じます。

植物を育てる (5)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)

●硬実休眠型種子

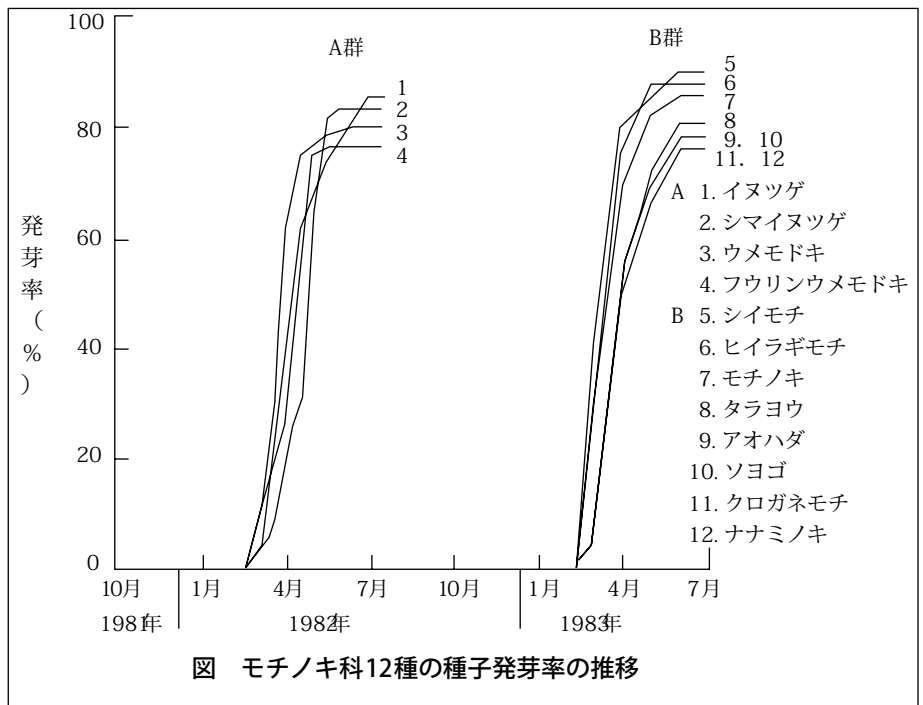
前記の硬実型と休眠型をあわせもつ型で、いまのところはヤマウルシだけしか見つかっていない。ヤマウルシは取り播きしても翌年春に少し生えるだけである。硫酸処理をするといくらか発芽率が上がる程度であるが、処理後1ヶ月以上低温におくと高い率で一斉に発芽する。低温処理だけでは発芽率はきわめて低い。

●後熟型種子

種子をふくむ果実が熟しているように見えるが、実際には未熟で発芽力がなく、親木から離れて後、時間経過によって成熟して発芽力を持つようになる。いまのところ、モチノキ属植物の多くの種に見られるだけである。親木から離れて一定期間休む休眠型とまぎらわしいが休眠型種子はすでに成熟しているの、休眠打破すれば発芽させることができる。後熟型では未熟なので熟するまではどうしても発芽しない点異なる。

クロガネモチのような常緑性の種は、沖縄に分布し、そこでは後熟性を持たず、すぐに発芽する。そこでは開花か

ら成熟まで1年かかっているが、近畿地方では開花から半年で冬がきて果実の色づいてしまう。そこで成熟まで日数が足らず、もう半年後熟になるのであろう。モチノキ属植物は液果であるから、果肉をきれいにとって乾燥させないように貯蔵する必要がある。



2000年春の中国黄土高原ワーキングツアーのご案内

見渡す限り一面黄土色の春の黄土高原。凍てついた土がとけはじめ、そろそろ春耕の準備がはじまります。干ばつ、虫害、地震と災害つづきだった'99年の大同ですが、2000年のスタートは順調にいくことを祈るばかりです。

春のワーキングツアーは、霊丘自然植物園をふくむ大同市南部を訪れ、農村の人びととともに植樹作業に取り組んだり、交流をおこなったりします。

- 日程：2000年3月26日(日)～4月2日(日)
- 費用：一般＝16万円、学生＝15万円(国際航空運賃、中国国内の交通費/食費/宿泊費、ビザ取得費

用、GEN年会費ふくむ)
 ※中国国際航空利用 ※関西国際空港発着 ※成田発着便利用の場合は、一般18万円、学生17万円になります。 ※北京または大同で合流ご希望の方はご相談ください。

- 定員：30名
- 締め切り：2月26日(ただし、定員に達し次第締め切ります)
- 申込み・問合せはGEN事務所まで



橋本紘二写真展 浸食大地 中国・黄土高原

橋本さんが大同に6年間かよって撮りためたなかから、今回新しくプリントした作品が展示されます。カラーは絵はがきでおなじみですが、白黒がとても素敵です。ぜひ、両会場ともお立ち寄りください。

- 【第1会場】(カラー編40枚)
- 期間：2000年2月4日(金)～9日(水)
- 場所：富士フォトサロン(東京都中央区銀座5-15キヤ橋センター2F、TEL.03-3571-0309)
- 【第2会場】(白黒編40枚)
- 期間：2月2日(水)～8日(火)
- 場所：写真弘社フォトアート銀座(東京都中央区銀座2-9-14、TEL03-3561-6109)

ナショナルトラスト・チコロナイ チコロナイ友の会 現状報告

ナショナルトラスト運動の「チコロナイ」は昨年6月17日に、「緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会」から活動を全て引き継いで独立し、新しく『ナショナルトラスト・チコロナイ』と「チコロナイ友の会」のふたつの組織として再出発しました。

ふたつの組織は今、会員を募集中です。また、ナショナルトラストのための募金活動は1999年12月に始まり、今は第3期を実施中です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

また、新しいリーフレットができています。知り合いの人や組織に配ってくださる方に、まとめてお送りします。必要部数をお知らせください。よろし

くお願いいたします。

【新組織の会員登録の状況】

(2000年1月4日現在)

『ナショナルトラスト・チコロナイ』
(二風谷現地の組織、NPO法人準備中、
理事長 貝澤耕一、年会費2,000円)
.....63人

『チコロナイ友の会』
(大阪中心の支援組織、代表世話人
武田繁典、年会費2,000円)
.....97人

【第3期の寄付の状況】

194件 (163人) 1,517,362円
(1998年12月10日～1999年12月27日)
第1期からの寄付協力者は総計519人になりました。

チコロナイ関連の今後の予定

●春の二風谷植樹ツアー

4月末～5月初めのゴールデンウィーク期間中

チコロナイの森で、カラマツを切ったあとにミズナラの苗木を植えます。春の山菜取りやアイヌ料理も楽しみましょう。

●夏の二風谷現地宿泊研修会

二風谷子供キャンプ (4泊5日)
二風谷ワーキングツアー (5泊6日)
いずれも詳細は未定です。参加希望

者の状況、要望にあわせて、計画を立てていきます。早めにご連絡下さい。

●催しもの案内

◆三人展

—アイヌ紋様を親子がそれぞれの形で表現する!—

貝澤耕一 (木彫)
貝澤美和子 (陶芸)
貝澤珠美 (布アート)

2月22日～27日、東京福音会センター・ギャラリーエルピス (JR「有楽町」駅から徒歩5分、地下鉄「銀座」駅から徒歩3分、TEL. 03-3561-2910)

チコロナイのホームページができました!

URL <http://homepage1.nifty.com/tkd-hp/main.html>

チコロナイに関するインターネットのホームページは、今まで「緑の地球ネットワーク」のホームページの中にありましたが、昨年6月の独立を契機に、新たに作り直して立ち上げました。新しいHPは、今のところ、武田ファミリーHPの中に入れてあります。

内容

- 1 チコロナイ表紙
- 2 チコロナイとは
- 3 活動内容・組織・運営
- 4 今までの経過
- 5 現在の活動
- 6 行事予定

7 「チコロナイ通信」バックナンバー紹介

8 最新の「チコロナイ通信」の内容紹介

2～8はそのページだけ見ることができるようになっています。また5～8は毎月初めに更新して最新情報をお知らせする予定です。

可能な方はぜひ見ていただいて、ご意見、改良のアドバイスなどをください。また、各方面のホームページへのリンクをはってくださるようお願いいたします。

第49回チコロナイ学習会

- 日時：1月22日 (土) 15時～17時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター (JR環状線「弁天町」駅、地下鉄中央線「弁天町」駅から徒歩5分、TEL. 06-6577-1430)
- 内容：チコロナイ学習会の今年の計画を相談します。
- 参加費：200円+カンパ
- 問い合わせ：チコロナイ友の会 (武田)
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～ 第5期第6回

- 日時：1月22日 (土) 13時～15時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター (チコロナイ学習会と同じ)
- 資料代：第5期 (6回) 分で2,000円
- 問い合わせ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著白水社)の14、15をやりまします。
飛び入りも大歓迎!
(400円)



【連絡先】

『ナショナルトラスト・チコロナイ』
〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 貝澤耕一方 TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991
●寄付金、年会費の送付先
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

『チコロナイ友の会』
〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6 武田繁典方 TEL./FAX. 06-6704-7720E-mail: vyn01123@nifty.ne.jp
●年会費の送付先
上記武田まで、切手、定額小為替または現金を郵送で。



**NGO とこんにちは！
NGO 屋台村**

- 北海道各地のNGOや、東京のNGOに混じって、GENもお誘いをうけて高見事務局局長がでかけます。各NGOのブース出展のほか、NGO活動推進センターによるセミナー（NGO就職希望者、海外ボランティア活動希望者などが対象）もあります。
- 日時：2000年1月29日（土）13時～17時、1月30日（日）10時～16時
 - 場所：ホテルニューオオタニ札幌 朝日ホール（札幌市中央区北2条西1-1、TEL.011-222-1111）
 - 主催：（財）札幌国際プラザ（TEL.011-211-2105 FAX.011-232-3838-mail:sicpfexc@poplar.ocn.ne.jp）
 - ★ブースを手伝ってくださる方、GEN事務所までご連絡ください！
 - ※翌日にも高見さんの講演会があります。
 - 【国際協力セミナー】
 - 日時：2000年1月31日（月）18時30分～20時30分
 - 場所：北方圏センター会議室（札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館12F、TEL.011-221-7840）
 - 主催：（社）北方圏センター

**ワン・ワールド・フェスティバル
2000**

今年は会場を変えて、「今、なぜ国際協力が必要なのか」をテーマに2日間にわたっておこなわれます。関西のNGOなど50団体あまりが、活動紹介ブースや民族料理模擬店に参加、GENもブース出展します。お手伝いいただける方はGEN事務所までご連絡ください。

- 【2月26日（土）】1時～2時
- ★13時30分～16時 シンポジウム「どうなる、21世紀の国際協力」
- ★18時～20時 在住外国人のステージ
出演：バイマーヤンジン、プカソソコ、奈良マブハイコミュニティ
- 【2月27日（日）】1時～16時
- ★13時～15時 パネルディスカッション「国際協力と教育」
- ★13時30分～15時30分 トーク「働きながらの国際協力」
- 場所：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8-2-6、地下鉄谷町線／千日前線「谷町9丁目」駅徒歩10分、近鉄「上本町」駅徒歩5分）
- 問合せ：関西国際交流団体協議会（TEL.06-6773-0256 FAX.06-6773-8422）

**六甲奨学金基金のための
第3回古本市**

（財）神戸学生青年センターがアジアからの留学生を対象に続けている「六甲

奨学金基金」の一部にするための、第3回古本市で販売する古本を集めます。下記の事項にご留意のうえ、ご家庭でご不要の本をお寄せください。

また、3月15日から5月15日までの古本市期間中のボランティアスタッフも募集中。詳しくは下記まで。

- 本を送るときの注意事項
- ※汚れ、破れのひどいものは×。
- ※ジャンル不問（絵本・マンガ・洋書可）。辞書大歓迎。ただし、雑誌・教科書・参考書・古いコンピュータ解説書・百科事典は×。
- ※3月1日から3月31日の間に（期間厳守）、送るか直接ご持参ください。送料はご負担願います。
- ※本の返却・価格指定はできません。
- 送り先・問合せ先：（財）神戸学生青年センターなんやか屋・古本部（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 TEL.078-851-2760 FAX.078-821-5878 ホームページ <http://www.hyogo-iic.ne.jp/~rokko/> e-mail:rokko@po.hyogo-iic.ne.jp

編集後記

2000年を機に表紙デザインを新しくしました。いかがですか？ 記事の感想、会報へのご意見や投稿などいつでも大歓迎です。GEN事務所までお寄せください。そして、阪神淡路大震災から5年。「当たり前」の日常の幸せを再認識しなくてはと思う今日のごろです。（東川）